誰もが安心して暮らせる町づくりをめざして

名北福祉会 広報誌

2021 1 Jan No.53

みんなの夢

2021 年 1 月 1 日発行（年 3 回）　発行所／社会福祉法人 名北福祉会　発行人／黒川　富子
〒 462-0807 名古屋市北区御成通 3-20-4 TEL:052-910-3066 FAX:912-5188 HP:http://meihoku-fukushi.org/

デイサービス町南の利用者さんが作成しました

新春のお喜びを申し上げます

理事長　黒川富子

皆様におかれましては、すこやかに新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。

そして日頃より、法人運営に温かいご支援・ご協力を賜り、心より厚く御礼申し上げます。

さて、昨年は新型コロナウイルスから、子ども、障がい者、高齢者、家族、職員、関係者、事業をどのように守るかが、大きな課題となりました。また、そのような中でも障がい者のグループホームである、町北ホームゆうやけ（地域生活支援拠点事業）を開所することができました。

一方、国政においては、政権は変わっても、国の政策は変わらず、自立・自助・共助を強調した「全世代型社会保障」により、公助である、福祉の公的責任をより後退させようとしています。

一人ひとりの、いのちと暮らしを最優先にした「権利としての社会福祉」と「平和」を実現するために、みなさんと手を取り合い、運動を進めていく所存です。

本年も引き続き、みなさまのご支援・ご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

高齢部

コロナ時代を暮らす

デイサービス東町

このご時世で私たちができること

新型コロナウイルスの感染予防についてのガイドラインに沿って、送迎車に乗車される前に検温と手指の消毒を行っています。昨年も猛暑となった夏は、脱水気味だったのか、お迎え時の体温が37・5℃以上あり、利用して頂けるか判断に迷うこともありました。フロアの机には飛沫防止のため、アクリル板を設置していますが、10名定員ギリギリのフロアで2m間隔を空けることは難しく、4名テーブルを6名で使用して頂く日も多くあります。

各地の花火大会や盆踊りは中止、また他事業所との合同行事（第二めいほく保育園の七夕会や高齢部夏祭りなど）も中止で、何とか利用者さんの思い出に残る夏の行事ができないかと考え、東町単独で7月は七夕会、8月は夏祭りを開催しました。「ここに来て一番楽しかった日だよ！」と喜んで下さった利用者さんもいて少人数ながら、とても盛り上がりました。1日でも早くコロナウイルスが終息しますように。

めいほく町南の家

この時代を暮らす

毎日来所時は検温し、到着したら消毒です。介護の現場は換気はできても、密接、密集は避けれません。空気清浄機やクリア板を設置していますが、マスクをすることが難しい方もいます。散歩、ドライブは行けても、保育園訪問や買い物等の外出はできず制限もあります。しかし、日々の暮らしの中の笑顔は今までと一緒です。そのことに救われます。ボランティアさんはすべてお断りしていた時期もあります。残念ながら町南まつりは中止し、3事業所合同の行事も無くなり各事業所ごとにしました。

「敬老の集い」は、初めて日常の姿をビデオで映し好評でした。

合同の職員研修は、各事業所ごとにし、資料を読んでレポート提出の自宅研修や動画に切り替えたりしました。感染予防しながらコロナ時代をたくましく暮らしたいと思います。

デイサービス町南
苦労のほうが多いけれど…

一年前には想像することもできなかった、新型コロナウイルスの流行。高齢者は重症化しやすいといわれ、とにかく事業所で感染が広がることのないよう、日々の検温や消毒は欠かせません。ご家族にも協力をお願いし、デイサービス内ではできるだけマスクを着用して頂いてます。感染予防には、3密を避けることが大事でも、限られた空間での介護は、密接も密集も当たり前。大きな声での会話も必要だし、みんなで歌をうたうことも大切な活動です。そんな中での生活なので、常に緊張を強いられますが、利用者さんが休まれることなく、デイを楽しみに通ってくださることに職員も元気をもらっています。もちろん苦労の方が多いけれど、皆さんが体調に気をつけていたため、寒い季節にインフルエンザや、風邪でお休みされる方がいなかったことはコロナ禍での数少ない良かったことの一つです。

まだまだ先の見えない状況ですが、対策を続けながらいつも通りの生活も守り、いつか「あの時はほんと大変だったよね～」と利用者さんたちと振り返りたいと思います。

研修にも変化が…

今年度は、例年行っている、対面した研修が行えないことが多く、高齢部、障がい部、保育部、地域生活部の各部で、工夫を凝らし、学習する機会を保障しています。その中でも話題になることが多い、オンラインによる研修も取り入れています。

参加する側も、企画する側も、初めてのことが多く、少しづつ慣れながらの研修となっています。

スムーズな研修が行えるまでには、回数が必要ですが、「新しい生活様式」として必要なツールとして進めていきます。

名北福祉会では各事業所で正規職員を募集しています。ぜひご応募ください

◆募集業種

保育士　生活支援員等　介護支援相談員、介護員

◇応募から採用まで

①書類選考　②実習・実地体験　③レポート提出　④面接

◇お申込み・お問い合わせ

社会福祉法人名北福祉会　人事担当 TEL052-910-3066

ヘルパーさん募集

〈ヘルパー２級・介護福祉士〉

障がいを持つ人やお年寄りの生活を支える、やりがいのある仕事です。
詳細はお問い合わせください。

時　給　1,000 円～ 1,750 円
※仕事の内容や時間帯によって違います。

交通費　850 円／日（上限）

問合せ先　ヘルパーステーションそら
電話 052-910-0712　（担当）岩橋・坂野

障がい部

障がいのある方のコロナ禍での環境の変化

めいほく共同作業所

「めいほくへ行きたい！」仲間の通所について

今なお、落ち着くことないコロナウイルス、それでも日々、感染防止しながら、仲間たちは元気に通い、仕事に励んでいます。

当初、コロナが流行し始めた春先、作業所の仲間たちの登降所を安全にどう保障しようかと、検討しました。出した答えは「感染防止しながら、仲間の通所を守る」

ということでした。具体的には、一人でバスや地下鉄を利用する仲間の車送迎、人混みの多い時間を避け時間差での地下鉄利用など。朝夕と作業所の車をフル活用して送迎を行いました。家庭や他事業所と相談し、協力連携して、この局面を乗り越えてきました。「作業所へ行きたい」「コロナが心配」などみんなの心模様がありながらも、みんなの力を合わせ、事業継続しながら、安全のもとで仲間の仕事・活動を第一に考えてきました。そこから見えたのは、いかなる状況でも「作業所へ行きたい」「仕事したい」「楽しいことしたい」「この人に会いたい」という仲間たちのねがいは変わらないということでした。

今後も、仲間たちのねがいを大事に事業や仕事・活動を進めたいと思います。

めいほく友の家

人とのつながりをキーワードに

新型コロナの脅威は、「3密を避けろと言われても…」、「どの消毒薬が新型コロナには有効なの？」「うつされるのは嫌だけどうつすほうにもなりたくない」「もし私がうつったらこの子は誰がみてくれるんでしょう？」等々、本当に様々な混乱をなかまたちやそのご家族、現場職員にもたらしました。

まずは、手洗いや消毒の徹底から始めよう、でも消毒剤やマスクが途端に品薄状態。

毎日の検温、1階から3階までのフロア移動の制限、みんなの大好きなお菓子作りやパン作り活動の中止、外出の中止、みんなで集まる行事の中止、プールの中止など日常の活動も変更や制限をせざるを得ない窮屈な日々が続いています。

しかし、そのような中でも新しく考えさせられたこと、工夫すればできること、これを機会に見直せた事柄などもありました。

この〝コロナ禍〟で憂うのは、その感染リスクを減らすために人と人とのつながりがかなり減っていることです。

「めいほく友の家」では、重い障害があってもみんなで地下鉄に乗って水族館に出かけたり、近所の喫茶店に出かけたり、作業で作ったパンや巾着袋をご家族の皆さんと一緒にバザーで売ったり…、その「存在」と「普通に暮らしていきたい」というアピールをご近所さんや地域や行政に働きかけていくことも目標の一つに掲げて活動してきました。それが、「3

密を避けるため」「感染拡大を避けるため」などの理由で、小さく縮こまったような、ひっそりと暮らすような、人と人との生の触れ合いが本当に少なくなってしまいました。

今年も新型コロナへの対策は続きますが、私たちの存在を知らせていく工夫を怠ることなく、できるだけの対応をしながら日々をみんなで楽しみ、元気に過ごせるようにしていきたいと思います。

のびのびクラブ

子どもたちにとって楽しい毎日を

昨年度末より学校が臨時休校となり、急遽毎日、朝からの開所となりました。感染の心配や名古屋市から通所の自粛の要請があったために休まれるお子さん、逆に保護者の方々のお仕事や他事業所との関係でご利用が多くなったお子さんもみえ、休校が終わるまではずっと先が見えない状況が続いていました。

また、活動にもとてもたくさんの規制がかけられてしまい、子どもたちに大人気のおやつ作りなどができなくなりました。そんな中でも、職員の作成した手作りシャワーでの水あそびや散歩を新たに取り入れ、毎日通所されていてもしばらく休まれていても楽しく通えたり、保護者の方々も少しでも安心できる環境作りをしてきました。

感染者が増加しているため油断はできませんが、感染予防をしながら、子どもたちがなるべく安心してストレスなく毎日楽しい日々を過ごせるように、これからも職員一同力を合わせて頑張ります。

めいほく鳩岡の家

仲間が生き生きと活躍するカフェを目指して

カフェはとおかは、仲間が店員として一生懸命働いており地域の方と障害を持った仲間をつなぐ役割を大きく担っています。しかし、今年のコロナ禍で4月から9月まで休店を余儀なくされました。「再開したいけどコロナの感染は怖い・・」色々な思いがみんなにあり、仲間や職員や家族と意見交換を丁寧に行いました。対策として、席数を減らす、換気・消毒を徹底する、時間短縮、テイクアウトの検討など、ようやく9月からモーニングのみ営業再開をすることができました。

休店中に仲間が、「早くカフェやりたい！」ということを口々に訴え、マスクができなかった仲間も、その思いからマスクをつける練習を頑張り着用できるようにもなりました。

コロナ禍の前は、仲間が商品を出したり片付けたりすることも仕事になっていましたが、感染リスクを考え職員が片付けなどを行っています。しかし、第三波の中で再び休店。「新しい生活様式」の中で仲間が生き生き働けるように仲間も職員も悩みながら新しいカフェの形を模索しているところです。

わくわく安井の家

工夫した活動づくりを模索して

コロナの感染拡大を最小限にするにはどうすればいいのか？幾度となく会議を繰り返し、安井の家でのこれまでの生活は一変しました。

午後からの活動では、全員合同で音楽活動などをしていましたが、対策の為通所後から帰りまで同じフロアで半分に分けたメンバーで過ごすことに。

活動もこれまでやっていたクッキーやくるみボタンなど、密になる作業は休止せざるを得ず…

おでかけも、今までショッピングセンターやスーパーなどが中心でしたがマスクが出来る仲間が少ないので出かけられず、我慢ばかり強いられ仲間も職員も鬱々とした日々を送っていました。

そんな状況ですが、コロナの状況をみながら活動を再開、クッキーズも納品先は減ったもののこれを機に、仲間や保護者への販売を始めました。

新しい生活様式になり不自由な事も多々ありますが、その中から☆★わくわく★☆を探していきたいと思います。

障がい部 暮らしの場

感染に立ち向かうための準備

障がい部、暮らしの場を支える3事業所（めいほくホーム、町北ホーム、友の家ホーム）では、コロナ対策として、必要になる生活備品等を購入しました。

まずは、コロナ感染を防ぐ水際対策として、消毒液噴霧スタンドなど除菌に必要なアルコール類の備蓄、体温計や空気清浄機などを購入しています。さらに、万が一、グループホーム内での感染が確認された場合には、感染を拡大させないための、使い捨て手袋や、防護ガウン、フェイスシールドなども購入しています。

「コロナ対策としてあらたに購入したもの」が、使用されずに、コロナ禍を乗り切れれば幸いです。

コロナ対策としてあらたに購入したもの

- ペーパータオル 300枚×25個 120箱以上
- 消毒液等 100ℓ以上
- 非接触体温計など 3個
- マスク 4000枚以上
- フェイスシールド 150枚
- 防護ガウン等 300枚
- 使い捨て手袋 300000枚弱
- その他必要備品

永年勤続者表彰

心より感謝致します。

正規職員
町北ホームゆうやけ　澤田公之　10年

短時間職員
めいほく友の家　金田成一　11年
山田徳子　12年

保育部

コロナ禍の中での保育づくり

めいほく保育園

自粛期間中の保育も子育てはみんなの中で

緊急事態宣言がでて、保育園をお休みする子どもたちが多くいる中の保育は、保育士も初めてでとまどいがありました。お休みの家庭も「このままでは心配だね」と職員のなかで話し合ってきました。

電話連絡と動画発信のとりくみ

めいほく会保護者役員と相談して、職員からの動画配信をおこないました。子ども・保護者に「みんな元気～？保育園でまってるよ～」という単純なものですが、反響をよびました。二回目は保育の中で行われている「リズム」の動画を配信。お部屋担任がお休みしている家庭に「元気にすごしていますか？」と電話で連絡を入れると、「子どもの生活リズムも崩れ、ユーチューブをみせたりしながら家ですごしているけれど寝るのが深夜になりとてもしんどい。」と電話口で泣いて訴えた方もみえました。「しんどかったら保育園にこればいいよ。」と伝えると安堵されていました。

「子育ては仲間の中で」保育園はなくてはならないところと再確認しています。

第二めいほく保育園

行事を見直すきっかけに

今年はいろいろな行事がなくなり、父母同士も顔を合わせることがほとんどなくなりました。そんな中だからこそ「楽しい1日を保育園の友達、父母と過ごす」取り組みも大切にしたいと職員で考え、各おへやごとで「ちびっこ運動会」を行うこととし、めいほく保育園のホールで行いました。お弁当を囲んで父母同士の交流や他のおへやの子どもたちの様子は見ることはできませんでしたが、広々したホールでいつもの遊びを父母とともに楽しむことができ好評でした。コロナの影響で苦肉の策でしたが、子どもたちの様子から今後の行事の見直しも必要と感じています。

なえしろ保育園

地域の中の保育園として

新型コロナウイルス感染拡大防止のため自粛要請されたのは保育園の子どもだけではありません。なえしろ保育園子育て支援センターに集う地域の子ども達、お母さん達の日常も奪われてしまいました。感染も考え外にも出れず、育児のストレスも大変だったと感じます。自粛期間中は支援センター職員が電話の相談などで支援を続けました。「お母さん元気にしてる?○○クンはどうしてる?困っている事ないかな?」など話も弾みます。「お父さんも在宅ワーク。家族みんな家にこもりがちでイライラする。公園に行ってもテープが張られ遊べない」と地域の実態も知る事ができました。又、「私のことを心配してもらえることが嬉しい」「センターが開いているだけで安心」などのお母さん達の思いも聞け、地域との繋がりを強く感じました。

新たな生活様式となり、感染対策に努め、お母さん達が集まってきています。子どもたちの無邪気に笑う声、マスクの下の笑った顔のお母さん達です。

今は、行事や講座は充実できてはいませんが、園庭解放の日は申し込みもたくさんです。

こんな時だからこそ保育園の役割ってなんだろう?コロナで感じたことがたくさんあります。地域の中の保育園としてこれからも一歩前に進んでいけたらと感じています。

めだか保育園

「ゆとりある保育を!」
―国・自治体の責任で もっと保育士を―

緊急事態宣言の下、保育人数が3割程に減り、「自分達にできることは何か」を模索し、子ども達が不安にならないよう、ゆったりとした気持ちで関わってきました。しっかり者のUちゃんは、小さい子のお世話をして頼られていますが、少人数保育では、保育士の膝の上で思いっきり甘え話をしている姿がありました。保育士もゆとりがあると、慌ただしい毎日の保育の中で、見過ごしてしまっていたかもしれない姿や、小さな呟きやサインに気づけた気がします。Uちゃんのお母さんが、「今の保育園の方が好きって言うんです。支度も早くて、早く保育園に行きたいって。少ないから先生にもいっぱい甘えて嬉しいんでしょうね。」と話してくれました。

私達は、ゆとりのある保育や保育環境とは何かを自粛中に体感しながら「毎日こんな風に、もっとゆったりと保育したい!」と改めて感じました。保育環境の引き上げや、保育の配置基準の改善など今後もみんなで声にして訴えていきたいと思います。

くさのみ保育所

いつも通りに…

くさのみは院内保育所なので、非常事態宣言発令中も通常と変わらず子どもたちを受け入れていました。（お仕事が休みの方にはお休みをお願いしました）

3月にくさのみを巣立っていったものの、転園先の幼稚園がお休みになり、くさのみで過ごした子どもたちが、OBの子どもたちも含めて1日2～5名いて、とても賑やかでした。

夏のプールも秋のあそぼう会も大勢集まることは避けつつも、コロナ対策をしっかりして取り組みました。病院の方をお招きしたりができないものの、「保育所ニュース」で日々の保育を伝え、しっかりアピールしています。

やだ保育園

コロナ禍だからこそ！

新型コロナによる自粛期間の後、密を避けるため、集う取り組みは制限せざるを得ない状況がありました。それまで行ってきた「シニアカフェ」、小学生対象の「学びのひろば」もそうです。「集う場があることで生活にハリが出る」「学びのサポートは必要」、そんな日常の生活を応援していくための取り組みは、コロナ禍だからこそ必要と感じます。カフェも、学びのひろばも感染対策を行いながら再開しました。

園内の父母の会も毎年恒例の「流しそうめん」交流会は諦めました。「でもやはり交流したい」という熱い思いが出され、「移動水槽」企画が実現。クラスごと時差をつけ参加し、ヒトデ、ウニ、サメなど海の生き物にドキドキしながら触り、子どもたちは歓声を上げ、大人も交流の機会が持てました。

つぼみ保育室

配慮しながら たのしい保育園生活を！

「心配だから登園しない。」「仕事がみつからないと退園。」「仕事がなくなった。」「鼻水がでている大丈夫？」と不安いっぱいの状況がありました。保育も公園に散歩にいくのも躊躇するなど…の状況から対応方針を確認。感染予防対策をして保育にとりくんでいます。

地域生活部

利用者の方が安心して利用できるサービスを!!

相談支援センター めいほく

思いや願いに寄り添って

昨年の3月からコロナ感染が全国で拡がる中、利用者の方々に大きな影響が出ました。感染を避けるため、通常の余暇、通所支援なども縮小し、手控えるなど普通の生活が困難になり、終わりのない感染拡大と長引く生活支援の縮小に戸惑い精神的にも体調にも影響が出てきました。

各事業所ではコロナ禍で障害のある方や高齢の方のいのちと健康、生活を最優先に守ってきました。「ソーシャルディスタンス」「ステイホーム」という言葉が毎日流されていましたが、高齢や障害のある人の生活において「人と人とのつながり」を深めることなくしては成り立ちません。コロナ禍でいかに福祉施策が脆弱であったかがあらわになりました。

あらためて「自助、共助、公助」ではなく「公助、共助、自助」の支援の順序でなければ、社会的に弱い人びとの安心できる生活はできないことがはっきりしました。

ヘルパーステーション そら

コロナ禍での取り組み

コロナ禍によって、そらのリスクマネジメントの課題とヘルパー支援体制、運営・管理の脆弱さが露呈し、事業の難しさを痛感しました。だが、一方で利用者、ご家族の潜在的なニーズ、願い、強みを知る機会となりました。また、他の地域福祉サービスとの連携、信頼度の現状も知り、今後に繋がる機会にもなっています。依然危惧される状況が続く中、この経験を活かして粘り強く信頼される支援、事業所運営に努めていきます。

ケアプラン町南

対策をしてポジティブに

コロナウイルス第3波の到来の中、高齢者施設において感染が広がっています。感染者情報が入れば、素早く情報共有し対応しています。アクリル板を使用し、ソーシャデスタンスを図り換気、在宅勤務、リモート研修、毎朝検温実施、来訪者の検温実施等の職場内環境を整えコロナ対策を行っています。また、コロナ禍でネガティブ思考になる中、ポジティブな考え、ポジティブな言葉を使って利用者の方とかかわるよう心掛けています。

「安全・安心な保育・学童保育の実現を」

国・県・市に向けた署名にご協力ありがとうございました。

コロナ禍の中で大集会は行えませんでしたが、工夫を凝らして運動を進めてきました。

11月4日を中心に、各地で街頭署名やアピール活動が取り組まれました。国会議員要請では、地元事務所への訪問の中で、史上最多の9名の議員からの紹介議員の約束をいただくことができました。県、市への署名も提出しました。

国会請願署名は、引き続き取り組んでいますので、お手元にある方は是非送ってください。

第二めいほく保育園　野口夕華

子どもの姿から学ぶ　残食ゼロを目指して

私が、保育園の栄養士として働き始めてから8か月が過ぎました。社会人1年目ということで覚えることが多く、実践を通して日々学ぶという生活でした。

ただ給食を作るだけではなく、子ども達と関わり合い、一緒に成長することができるのが、保育園栄養士の魅力であり良いところだと思います。

子ども達は、素直なので好き嫌いがはっきりしています。献立が2週間サイクルなので、1週目より残食を少なく、美味しく作るというのが私の中の目標です。お部屋をのぞきに行って「何が嫌だったのかな?」と子ども達に直接聞けるので、次回の参考にもなります。特に副菜の残食が多いので、子ども達の好きな海苔和えやマヨネーズ味にしてみたり、野菜を入れる比率や切り方を変えてみることで子ども達の食べが良くなると、とてもうれしく思います。

まだまだ学ぶことは多いですが、経験を積みながら子ども達の栄養と心身を共に満たせるような給食作りをしていきたいなと思っています。

新人紹介

めいほく友の家　上ノ内友恵

「できる」ことに出会う喜び

めいほく友の家に勤めて8か月がすぎました。

大学時代は、地域福祉コースを選択し、福祉や地域、障害について多分野に渡り、学んでいました。その経験から現在、福祉現場で働けることにやりがいを感じています。

実際に現場で勤めはじめたときには、送迎中や通所された仲間を受け入れるとき等でも、何をしたらいいのか、何を話したらいいのか分からずに、どう動いたらいいのか分からないことがありました。今私は1階フロアの配属になっているのですが、他のフロアの仲間を送迎することもあり、余計に不安に感じたのかとも思います。特に言葉でのコミュニケーションが取りづらい仲間だと、声をかけながらすることを忘れてしまい、どこまで自分が支援したらいいのか、分からなくなってしまうことが何度かありました。

しかし、関わってみないと分からないことがあると気づきました。その仲間が「できないであろう」と私が勝手に思ってたことも、支援の仕方やその仲間に合う活動への参加の仕方を変えてみると、「できる」ということを関わる中で発見があるということを知りました。そのような瞬間に出会えれば出会えるほど、働く上でのやりがいにも繋がり、「もっとこんな支援をしたい」という自分の中での目標が作れると思います。

これから友の家に関わる仲間たちと接していくことで、様々なことに気づき次に繋げられるような支援をしていきたいです。

障害福祉についての法制度拡充を求める請願

きょうされん署名に ご協力ください！

新型コロナウイルスの収束はまだ見えてきませんが、コロナ禍で障害のある人、家族、事業所には様々な問題が明らかになりました。

第 44 次の国会請願では、これらの解決を一番に求めています。

「コロナに負けない」を合言葉に、できることをできる限りとりくみましょう！

※今年も４月までの署名の取り組みとなります。

封筒（切手不要）に入れ、返信お願いいたします。

「ＳＴＯＰ 介護崩壊」

～署名へのご協力お願いします～

今年４月には３年に１度の介護報酬の改定が控えています。新型コロナウィルスの影響で経営が悪化している通所介護への報酬を手厚くする方針が示されている一方、介護職員の処遇改善については「国民に負担増を求めてまで進める環境にはない」と財務省が否定している現状です。コロナ禍の中で日々高まっていく介護需要に応える為には介護保険制度の抜本的な改善が不可欠です。安心して介護サービスを受けられる社会を目指す為に、皆様の署名へのご協力をお願い致します。

同封の封筒に入れきょうされん署名と一緒に返送してください。

名北福祉会を支える会の会員募集　夢のある豊かなまちを共につくりましょう !!

「平和で豊かな住みよい街づくりをすすめ、福祉の充実をめざします」に賛同する人たちの力で、法人が進めている事業や「みんなの夢」をかなえるための施設づくりを応援しています。よびかけに多くの方のご協力をいただきありがとうございました。引き続き応援よろしくお願い致します。詳細は本部までお問い合せ下さい。